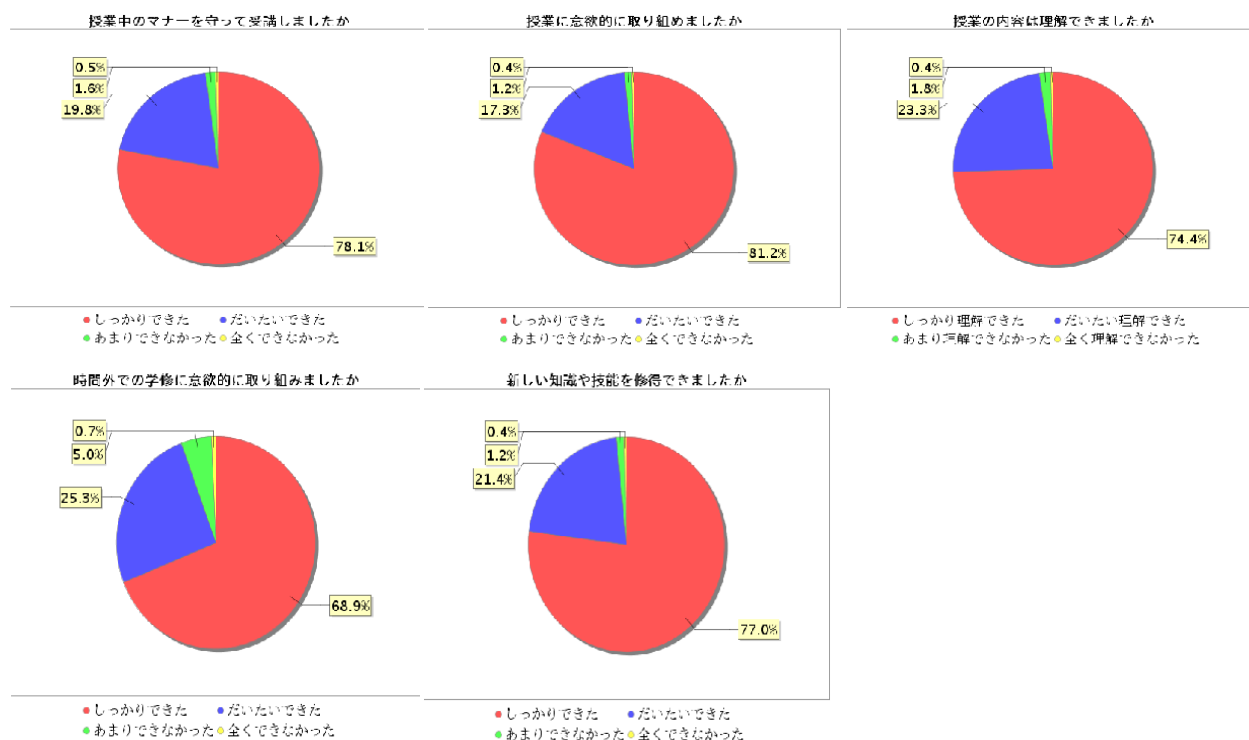


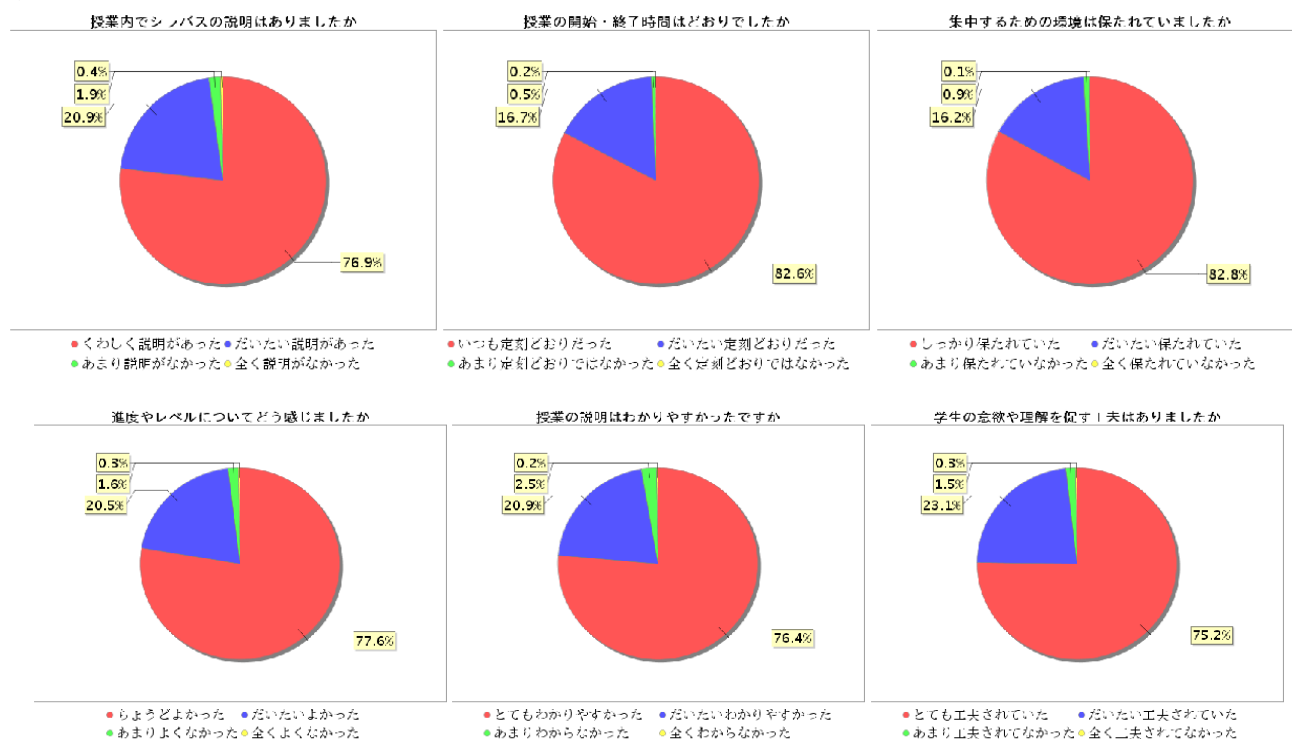
前期授業評価 『学生から教員の方々へ』

令和6年度前期の学生による授業評価を全学科で実施しました。結果のまとめを以下に示します。

□ 自己評価の結果



□ 授業評価の結果



〈今回の結果からわかること〉

1. 授業評価の実施について

今年度前期の授業評価を実施しました。

- 講義系・実習系の授業を区別せず、全科目同様の質問項目での実施
- 自己評価と授業評価に分類

2. 学生による自己評価について

学生による自己評価の結果は、「授業中のマナー」「授業に対する意欲」「授業内容の理解」「時間外での学修に対する意欲」「新しい知識や技能の修得」のいずれの質問に対しても、「しっかりできた」「だいたいできた」を合わせると94%を超えているなど肯定的な評価がほとんどでした。これは、多くの学生が前向きで真面目に学生生活（授業）に取り組んでいることの証であると言えます。

しかし、より一層充実した学生生活を目指すために、「しっかりできた」との回答に焦点を当てて分析すると、「授業に対する意欲」については80%を超えていますが、「授業中のマナー」は78.1%、「授業内容の理解」は74.4%、「新しい知識や技能の修得」は77%と「授業に対する意欲」に関する質問と比較すると若干低い結果となっています。

特に「時間外での学修への取組」については68.9%と他の質問には見られない低い結果となっているだけでなく、「あまりできなかった」が5.0%、「全くできなかった」が0.7%となっていることから、確かな学力とより高度な技能を身に付けるためにも、「時間外の学修への取組」の改善が課題であると考えられます。さらに充実した学生生活（授業）の実現のためにも、より魅力的かつ有益な指導を行うための継続的な授業改善が求められていると考えられます。

3. 学生による授業評価について

授業評価についても自己評価と同様、いずれの質問に対しても肯定的な回答が97%を超えており、授業に対する学生の満足度が高いことが分かる結果となっています。

しかし、自己評価の分析と同様に、質問に対する最も高い評価の結果だけに着目するといくつかの課題が見えてきます。まず「授業の開始・終了時刻」は82.6%、「集中するための環境」は82.8%と大変高い評価を得ており、多くの学生が授業を受ける環境に十分満足していることが窺えます。

一方、「シラバスの説明」は76.9%、「進度やレベル」は77.6%、「説明のわかりやすさ」は76.4%、「意欲や理解を促す工夫」については75.2%と、授業そのものに対する満足度は、環境に対する満足度と比較すると若干劣っている結果となっています。このことから、自己評価の結果からわかった課題と同様、より一層の授業改善が求められていると考えられます。

前期授業評価 『教員から学生の皆さんへ』

令和6年度前期の学生による授業評価に対して、教員から学生のみなさんへの回答をまとめました。

専門科目◆科目名（学科名の略 学年）

【幼児教育学科】

◆ 音楽・基礎（幼1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

シラバスに基づいた授業の内容を進めると同時に、学生の理解度等（全体と個々）を意識するようにしました。また授業後の振り返りシートを活用し、学生たちの習熟度を丁寧に見ていきました。その結果、理解できていない箇所には、次回の授業説明で補っていくことができたと思います。

2. 授業評価の結果に対するコメント

回答率が100%でした。学生のみなさんと教員の双方が授業に対して真面目に取り組めた結果だと思います。保育者に必要な音楽の基礎知識を効率的に学べる工夫として、90分の授業を個人レッスンと全体授業の45分ずつに分けて行っています。自由記述のコメントから、この授業方法がみなさんにとって知識・理解、技術の習得につながっていることがわかり嬉しく思います。

3. 今後の授業における目標

この授業の特性として、今までの音楽歴により授業内容の難易度が個々によって異なると思います。今後も、そのことを念頭に置きながら、受講者全員が満足のいく授業展開に試みたいと思います。また、学生からの質問コーナー等も取り入れて、学生のみなさんの声にも耳を傾けていきたいです。

4. 受講学生に対する要望

ピアノの技術の向上は、個々の努力次第です。コツコツと練習を積み重ねてください。質問はいつでも受け付けていますので、分からないことはすぐに解決していきましょう。

◆ 障がい児保育 I（幼1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

中間の講義の辺りで、前半の内容の小テストを入れました。そのことにより、学生には試験のイメージを掴む機会になったと思われますし、授業者にとっては、学生の理解度や記述度を把握することができました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

昨年度好評であったので、引き続き学生それぞれがテーマについて調べ発表という形態をとりました。「自分で調べたので知識がより確実に頭に入った」「友だちの発表からたくさん学べた」等の意見がありました。今年度は一人2テーマにしたことや、一つのテーマを複数発表することで、より知識が広がったり、深まったりしたのではないかと感じています。また、主体的に学修に向かえる形態であることも実感できました。

3. 今後の授業における目標

障害児保育1での学びをより修得するためにも、継続していきたい形態です。一人複数テーマにすることで、一回目より2回目の発表で改善や工夫が見られたりしていたので、この点も継続していきたいと思います。特に、複数発表の場合、大切な特性や支援については繰り返し聴くことになり、重要な点を理解する上でも効果があったと感じました。その良さも活用していきたいと思います。

4. 受講学生に対する要望

保育の現場には気になる子どもたちは必ずおり、夏休みの実習時に会います。その時に、学んだことと結び付けられるようになって欲しいです。机上の学びだけでは単なる知識になってしまうからです。本人が何で困っているかを理解する際に、この時間の学びを活かしてください。そのためにも、障害児保育1も思い出しながら、一つでも確実に知識を身に付けられるように、意欲的・主体的に学習に臨んで欲しいです。

◆発達心理学（幼1・音1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前回の授業評価では、複数の科目で授業環境の整備（具体的には学生の私語への対応）が課題となっていた。心理学系の講義では授業を受ける際の心理状態も学生にとって重要であると考え、自由席で授業を行っている。令和6年度前期には、上記理由を丁寧に学生に説明するとともに、早めに注意をするよう、心掛けた。ゲスト講師の授業の際にも講義室内をよく見て、他学生の集中力を削ぐような言動をしている学生を注意した。教員が注意を与え良好な受講環境を確保したことについては授業時の学生からのコメントでも肯定的に捉えられており、一定の効果は得られたものと思われる。後期も引き続き継続していく。

2. 授業評価の結果に対するコメント

各項目の得点を見ると、学生自身の理解の得点と時間外課題の得点が低いのが気になる。時間外課題は毎回テーマを決めて課しているが、実技系のように時間外の練習や制作が必要となる授業ではないため、分量が足りなかったものと思われる。また、教員の説明についての得点が低く、これが学生の理解不足に繋がったと推測される。しかし、記述コメントを読むと、授業について知識が得られたことや知ることができたことについて多くの学生が詳細な内容を挙げている。その内容からは学生が自分自身の人生を発達心理学の視点でしっかり捉え直しており、授業で伝えなかったことが正しく伝わっていたことが窺える。学生自身がもっと「理解できた」と実感できるように、授業で提示する内容を厳選したり、学生が出来ている部分を強調してフィードバックしたりすると良いのではないかと思う。

3. 今後の授業における目標

教材を提示して授業を進める一方で、学生の理解度を適宜把握し、学生の反応を見ながら説明を加えるなど、学生が実際に学んでいるかどうかを確認しながら授業を行う。学生から好評のSlidoについても、一つ一つの発言を肯定的に捉えてコメントする従来からの対応に加えて、全体的なまとめや良かった所などを明言し、学生の意欲や自己効力感を高められるよう心掛ける。

4. 受講学生に対する要望

毎回のミニッツペーパーの「質問や要望」欄に具体的な要望や改善すべき点などを書いてください。小さなことでも次回の授業で改善することができれば、もっと快適に楽しく授業を受けることができます。授業中の私語については「授業に関係のあることを話している場合もある」とのことですが、他の学生の集中の妨げにならないよう、クラス全体への影響を考えて行動してください。

◆幼児と環境（幼2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

学生が身近な環境や社会問題に目を向けられるように、最新ニュースや季節（自然）について伝えるように努めたことで、学修成果や感想に普段何気なく見たり聞いたりしていたことも意識している内容の記入が増えてきました。保育現場の情報に興味関心を示す学生もみられました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

知識技能習得の自己評価が高かったことから、実際に自然探索、苗植え、行事の制作などを経験して実体験の大切さを実感しながら学修することができた学生が多くいたことがわかり嬉しく思います。豊かな感性で丁寧に取り組む学生が多く、学生同士で見合うことでも学びに繋がっているとわかりました。一方で、授業の取り組みに対する評価では、授業環境、説明、工夫の評価が低かったのですが、改善した方がよい具体的な意見が得られなかったため、学生からの生の声を拾いながらわかりやすい授業に努めていきたいと思えます。

3. 今後の授業における目標

グループワークに積極的に参加し、人前で意見を言ったり発表したりすることが上達してきた2年次生の保育技術力を更に向上できるように、場面や年齢を詳細に設定し学生自身が状況判断して変化できる発表内容を増やしていきたいと思えます。この授業では、話し合いや製作などで片付けが必要なきもありますので、学生自身が見通しをもって授業を終えられるように活動内容や作り方だけでなく、片づけやまとめの時間も意識して行えるように示していきます。

4. 受講学生に対する要望

保育を行うには、子どもの多様性やその時の状況に応じての対応力が必要です。正解が一つあるのではなく、様々な捉え方、関わり方があります。ですから多面的な思考ができるように、自分とは違う意見や考え方も視野を広める機会として、様々な学生の意見に耳を傾けながら学修を進めてもらいたいと思えます。

◆幼児と運動・遊び（幼2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

演習科目を多く担当しているため、より実践力につながるようにグループワークを充実させることを授業改善の課題としました。グループワークの内容を明確にすることや、グループをあまり変えないことで、より深い学びになることを目指しました。全般的に、授業の意図を理解し、意欲的で楽しく授業に取り組んでいる姿が見られました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

概ね良い評価であり、学生自身が意欲的に学修に取り組んでいたことに感謝している。幼児の運動・遊びを保育現場でどのように活動を確保し展開するのか、高い意識でグループワークに取り組んでいたと、教員として満足している。また、歯科衛生学科と科目における共通課題において学修交流を行ったが、他分野の学生との学びが有意義であった旨の意見もあり、授業改善としての成果であった。更なる、魅力ある授業改善に努めたい。

3. 今後の授業における目標

保育実習Iaでの現場での実践からの学生自身の個人課題に注目できるようにし、今後の授業を展開したい。運動は、乳幼児期の発達に重要な役割がある要素であり、保育者個人の運動への得意、不得意の実態や興味関心による主観により、その取り組みに差ができることは避けなければならない。学生自身がその意義を理解し、現場で自信をもって実践できるノウハウを身に付けられるよう、より具体的な助言指導ができる専門性を高めたい。

4. 受講学生に対する要望

毎回の授業にも意欲的に取り組んでいる姿が多く、深い学修ができたと思えた。個人の考え方や取り組む姿勢が様々で、統一の目標を定めたり、考えを合わせたりすることが難しいグループワークにあって、妥協することなく、より質の高いことを追求する姿が随所に見られた。現場実践では、思い通りにいくことばかりではないが、物事を成し遂げ積み重ねることこそがキャリアの形成であり、みなさんの意欲的に挑戦する姿に期待する。

◆教育方法論（幼2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし

2. 授業評価の結果に対するコメント

アンケート調査から、学生が近年その有効活用が叫ばれている ICT を通した保育・教育について学びを深めることができたと考える。シラバスに示した学修内容や到達目標に、準拠して講義が行えたと考える。一方で、ICTに関する内容を強調したため、一部の学生から「とにかく ICT をやらせたいって思いしか伝わってこなかった。」という意見もあった。

3. 今後の授業における目標

一部の学生から「何が身に付いたのか正直わからない。」という意見があった。今後は、各講義において、授業者として学生に身に付けてほしい力を明示することや講義内で学んだことの振り返りを行う時間を十分に設けていきたい。また、研究者としての意識をもち、常に新しい情報を取り入れながら、学生に伝わりやすい方法を模索して指導する。

4. 受講学生に対する要望

課題提出を忘れずに行えるよう、カレンダーや手帳に記録し、計画的に学習してほしい。今後も、前向きに授業へ参加してほしい。

◆造形・基礎（幼1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

大きな課題の制作だけでなく、幅広く表現に触れる経験を増やすため、授業の前半や課題学習で、折り紙課題やスケッチブックを使った課題をできるだけ実施しました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

受講生の中には、久しぶりに美術の授業を行う者もいる授業で、皆がじっくり考え、制作を楽しむことを大切にしました。アンケート結果でも楽しく制作ができたなどコメントあり、子どもたちとの制作でも大事にしてもらいたい視点が伝わったと思います。

3. 今後の授業における目標

制作と講義のバランス、時間配分などについては概ね満足していただけたようです。もっと作りたいたいという気持ちがある学年のようですので、たくさん作れるよう工夫をしたいと思います。

4. 受講学生に対する要望

手を動かして作る楽しさを体験していただけたので嬉しく思っています。作る楽しさ見る楽しさを大切にしながら、「作ってみたい」「やってみたい」を盛り上げていく授業を一緒に作りましょう！

◆保育指導計画の方法（幼2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

保育現場のイメージが具体的に抱けるような事例やエピソードを中心とした内容を取り上げた。また学生の質問に答える時間を設け、授業内容や授業内容に関連した学生の保育事例の悩みを解決する時間を作るようにした。また ICT 教材を活用した授業を展開した。学生からは授業の工夫などの評価が上がった。

2. 授業評価の結果に対するコメント

今年度より指導計画作成のための練習問題を新たに設けた。指導計画に初めて本格的に触れる学生にとっては難しいものがあったかと思うが、どの学生も真面目に取り組んでくれた。また指導計画作成のポイントをまとめたことで、昨年度より授業の取り組みの「説明」「工夫」が向上したのではないかと考えられた。

3. 今後の授業における目標

指導計画の問題の難易度や達成度、時間配分など学生の意見を参考に改善していきたい。また指導計画作成のポイントをまとめたが、もう少し重要点を絞りたい。さらに保育計画と実践の関連性のイメージを具体的に得られるよう、写真や動画などの視覚的な教材を多用した授業展開ができるようにすることで、現場に活かせる指導計画の知識と技術を積み重ねてもらえるようにしたい。

4. 受講学生に対する要望

課題をもって真面目に学ぶ姿が見られたので感謝しています。その時折で異なる学生の学修の興味・関心に応じられるようにしたいので、授業評価アンケート外でもいつでも授業に対しての要望を挙げてもらいたいと思う。

◆幼児と言葉（幼1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

「毎回プリントがほしい、パワーポイントの穴あき資料がほしい」という学生の要望を受け止め、配布資料を改善・工夫しました。その結果、学生から「指針の中で大切な場所を穴埋めにしてくれたのでわかりやすかった。」「要点がまとめられたプリントが有難かった。自分で単語を埋めるので頭に入りやすく授業が受けやすかった。」等のコメントをいただいたので、今後も授業内容ならびに資料作りや提示の工夫を継続していきます。

2. 授業評価の結果に対するコメント

絵本や紙芝居を通して他学生と楽しんだり、発見したりしながら、保育技術の引き出しを増やしてほしいとの願いで絵本や紙芝居の紹介や学生主体のおはなし会を行いました。学生の振り返りでは「自分が初めて知る絵本がたくさんあって学びになりました。」「おはなし会を通して絵本を読むことが少し苦手じゃなくなりました。また読み方が前より工夫して読めるようになった。」等のコメントをたくさんいただき、とても嬉しく思います。

3. 今後の授業における目標

振り返りシートを通して、毎回の授業の初めに前回のフィードバックし、学生の理解度を把握するだけではなく、疑問点については質問をしやすい環境を整えたいと思います。また、「先生の保育士時代の話をたくさんきけて面白かったし為になる話が多かったので聞いて良かったです。」等のコメントをいただき、励みになります。今後も、保育現場経験を踏まえた事例を示しながら理解しやすい授業を組み立てていきたいと考えています。

4. 受講学生に対する要望

将来、保育者として、子どもたちのつぶやきや保護者の思い等を聞き逃さず大切にしていくためにも、疑問点については、その都度、解決することを心がけ、大切なところは、自らすすんでメモを取ったりマーカーを引いたり、わかりやすくまとめる力をつけていきましょう。また、現場ではチーム保育が大切です。グループワークの経験を積み重ね、他学生の良さを素直に取り入れることができる保育者を目指してもらいたいと思います。

◆社会的養護 I（幼2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

教科書を読むだけでなく、読んだ上で現場でのエピソードを入れるようにした。実際の現場の話を多くしたため社会的養護の実情がより学生に理解を得られた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

実際に現場で働いている保育士や心理士を招いてリアルな現状を話してもらうことで、社会的養護の分野への理解が深まったのではないかと思います。私自身もなるべく実体験の話を学生にすることで、子ども達の生活状況、保護者との関り等の理解も行えたと思います。

3. 今後の授業における目標

今後も社会的養護についての現状と課題を学生が理解できるよう、実体験の話を実際に説明することで、保育士としての専門性を高められるような講義を行っていききたい。

4. 受講学生に対する要望

子どもの気持ちに寄り添える保育士を目指してください。

◆教育原理（幼1、音1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

グループごとに、さまざまな国の教育制度についてのプレゼンテーションを作成し、発表する活動を初めて導入した。その結果、受け身ではなく、能動的に授業に参加する姿勢を生み出すことができた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

従来から実施していたペアやグループでの話し合いの時間に加え、1に記したとおり、グループでプレゼンテーションを作成し、発表するワークを取り入れた。それによって、学生がより主体的に学び、前向きに授業に取り組む姿勢が生まれた。

3. 今後の授業における目標

学生が受け身ではなく、主体的に学ぶ姿勢が生まれるアクティブラーニングの活動を今後一層増やし、授業の活性化に努めたい。

4. 受講学生に対する要望

授業に対して、受け身でなく、主体的に学ぶ姿勢がとても素晴らしかったです。今後もその姿勢を大切にして、楽しみながら前向きに取り組んでいきましょう！

【デザイン美術学科】

◆クロッキー（デ2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

自分に限ったことでなく、演習系の科目が多い学科なので、受け持つ授業が、たとえ大人数の物であっても、個別指導がほとんどになるため、一人一人の、その時々伸ばすべき点を、時間を区切ってできるだけ早くアドバイスを行えるよう、一層心がけ指導を行うようにした。結果、以前と比べて個々の学生が手を動かす時間を妨げることなく、スムーズに制作が進むようになったと感じている。

2. 授業評価の結果に対するコメント

どの項目についても評価は高く、概ね問題はないように思える。自由記述を見ても、1年生時のクロッキー基礎からの発展型の内容の為、それぞれの学生が前年との比較で、進歩していると捉えていることが、満足度につながっていると感じられる。

3. 今後の授業における目標

演習系のいろんな授業に於いて、技術を高めるには反復することが重要であることから、とにかく描く機会を増やすことを目標に、よりの確なアドバイスができるようにしていきたい。

4. 受講学生に対する要望

クロッキーの授業は前年の発展型であり、比較での進歩が見えやすいと書きましたが、自分の中での比較だけでなく、他者（学生同士もだが、プロも含め）との比較で、自身の足りない所が見えるようになる、もう一步先まで行けるようにいけるようになるので、ぜひ外に目を向けてください。

◆デザイン論（デ1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前年の結果を踏まえ、履修者の水準に合わせた細分化の内容を心掛けた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

評価全体(平均)がおおよそ向上したことは、成果だったと考える。今後はさらに「成績内容」と「学生の取り組み意欲」とのアンケート調査を採用し、結果についてポートフォリオ分析を行い、授業改善に役立てたい。

3. 今後の授業における目標

上記の分析に基づき、よりよい授業体系を構築したい。

4. 受講学生に対する要望

あらゆる場でのリアクションをよくしてください。質問があればしてください。質問がなくても、質問を考えて、質問してください。学生(生徒ではありません)であることの意義を自身で考えて、目標をもって授業の受講、研究等に取り組んでください。自律してください。

◆コミックキャラクター（デ1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前回の修正点を踏まえて課題内容のレベルを少し落としたりした。その結果として提出された作品レベルはおおむねレベルアップできたように思われる。

2. 授業評価の結果に対するコメント

提出された課題レベル及びアンケートから学生の「考える力」と「思考の方向」に対する理解度は上がったように見受けられた。この方向で更にブラッシュアップをしていきたい。

3. 今後の授業における目標

上記したことを踏まえて「クリエイターの回路」を理解・活用できる学生を育てていきたい。

4. 受講学生に対する要望

授業外でも多くの作品に触れてほしい。思考と技術は普段の入力に依存することを正しく知って欲しい。

◆絵コンテ演習（デ1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

科目ごとに、導入説明、課題内容、制作期間など、毎時見直しをしています。美術を愛する学生は、個性豊かな学生が多く、一人として同じ学生は、存在しません。よって、私は日報を導入し、学生の言葉からの状況把握を大切にしています。昨年度、【学生が『自分は頑張った。』と思えるような授業づくりをしていきたい。そして、個々の特性に合った指導に努め、成果を実感できる授業にしていきたい。】と、目標を立てました。今年度特に強化した取り組みは、学生の進捗状況に合わせて、課題の到達点を明確化し共有したこと。これにより、課題の目的やその優先順位や到達目標の度合いの把握をし易くなるように努めました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

この授業は、基礎科目としての位置付けであるため、授業前半において、導入の役割として、講義に厚みをつけました。それにより、専門知識と今までの体験を結び付け、映像表現のすばらしさと可能性に気付いていただけるように努めました。設問『この科目を受講して良かったところを自由に書いてください。』の回答において、「絵コンテの仕組みストーリー、様々な知識をつけられてとても勉強になりました。」「今まで知らなかったり、考えたりしたこと無かった視点や考え方で作品を見直すことが出来た。」「考えることの楽しさに気付いた。」などの回答から、一定の成果を確認できました。引き続き意識を高く持って取り組みたいと思います。

3. 今後の授業における目標

創造行為において「発見」「考察」「行動」が大切と考えます。今回の調査に以下の回答がありました。設問「授業の進度やレベルについて」回答「周りの子で大きい声で叫んでる子が居たので集中力が保てなかった。」考察に最適な環境を整える必要があると再確認しました。今後は、皆で考える時間と個々で考える時間を明確にし、伝えていくことと、その効果を自覚していただくことに注力します。そして、「発見」「考察」「行動」の機会を、少しでも有益化し、個々の学生の活力へ結び付けていきたいです。

4. 受講学生に対する要望

「発見」「考察」「行動」を繰り返し、知識と体験にたくさん触れ、考察する視点を肥やし、知恵として昇華させ、自身へも他者へも豊かな心で向き合うことに、美術で学んだことを活用していただければと思います。

◆CGキャラクター基礎（デ1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

「放課後の学修時間」が、就職につながる。放課後、教員アドバイスと、学生が互いに教え合うことは、励みになり学修の魅力を増す。「思いやり、前向きな思考」を育むことが、大切と感じた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

【CG制作、学生の楽しさを、多くのコメントに実感】

コメント例

・生徒にとっての知りたいに全力で先生が答えようとしてくれてるなと感じ、毎回の授業をとっても楽しみにしていました。

・初めて使うアプリや作業が多く、何もかもが新鮮でうまく扱えるか心配でしたが操作方法の説明が分かりやすく、自分なりのやり方を見つけることもできたし自分の好きな分野に最も近いと実感がわき新しい道へ切り開くことができたし何より楽しかったので、この授業は受けてよかったと一番思える授業でした。

・とにかく楽しい！！！！！！

3. 今後の授業における目標

放課後の制作アドバイスを、継続する。学生一人ひとり、日々制作することが習慣付けば、ゲーム、アニメCG会社、採用期日までに、それぞれ作品が完成する。

4. 受講学生に対する要望

「目標を決めて」放課後、作ってみましょう！「途中、見せて」アドバイスもらいましょう！「作ってみる！」続ける、ゴールが見える。

◆日本・東洋美術史（デ1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

それまで口頭でしか説明していなかった内容も理解しやすくするため授業に用いるスライドに説明を多く付した。

2. 授業評価の結果に対するコメント

おおむねよい評価で、学生にとって興味関心が湧く授業ができたようでよかった。映像を多めに取り入れることで授業にメリハリが出たのではないかと考える。

3. 今後の授業における目標

学生に少しでも日本や東洋の美術に関心をもってもらえるような授業を追求していきたいと思う。

4. 受講学生に対する要望

美術、美術史に関心をもってもらいたいと思います。また、授業で紹介する芸術家がどのような考えをもち、どのような技法で制作したのかを考えつつ、ご自分の制作活動に活かしていただけたらいいなと思います。

◆CG 基礎（デ1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

今回は授業内容をできる限り授業外でも確認ができるように PDF 化し、課題の内容も小分けにして学生の進行度の違いにもある程度対応できるように工夫をしました。結果として学生からの質問などが減り、授業をスムーズに進めることができました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

今年度から classroom に課題の参考例を載せたり、授業内容を PDF 化したりする試みをしてきました。アンケートで好評だったことが分かり嬉しいです。特に授業内容を PDF 化したことによって画像の資料を多く載せることができ、言葉では説明しきれない部分もしっかり学生にも伝わったようで良かったです。

3. 今後の授業における目標

なるべく多くの学生が面白いと感じてもらえるような授業になるように教材を改良していきます。手持無沙汰な学生が出ないように課題の時間や難易度を今一度調整します。

4. 受講学生に対する要望

授業内で取り上げた内容は単なる機能の紹介ではなく、イラスト等の制作に役立つものをピックアップしてます。授業内で得た知識・技能は、個人での作品制作に積極的に活用してってください。

【音楽総合学科】

◆管楽器・業界研究Ⅱ（音2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

作成した資料の文字の大きさ、スライドの枚数を見直しスライドを表示する時間を長くした結果、補足説明の時間を増やすことができより細かく説明することができた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

昨年度に引き続きの新規開講の授業であったが、学生からのコメントで1年生の頃に学習した知識よりさらに深い管楽器の知識習得できた等、1年次の学びを軸に発展できたので良かったと思う。来年度へ向けて内容を今一度見直しより学生にとって身に付く講義内容にしていきたい。

3. 今後の授業における目標

作成したスライドの内容を見直し、見やすさ・文字の大きさなどを工夫したい。進行の時間にもう少し余裕が持てる内容にし、単に説明だけで終わらず補足などをしてより伝わる内容を心掛けたい。

4. 受講学生に対する要望

学んだ知識を定着させるためにも復習の時間を作り、自分の知識にてきえるような工夫をしてほしい。カタログ等を読む習慣を付け、卒業後の知識として活用してほしい。

◆音楽総合特講Ⅲ（音2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

昨年行った授業の内容を振り返り、店の展示に関する内容を充実させるべくポップ作りの授業を2コマとした。

2. 授業評価の結果に対するコメント

学生からは時間をかけて取り組むことができたが高評価が得られた。

3. 今後の授業における目標

楽器店への就職を希望する学生のための授業で、身に付けてほしい内容が多岐にわたるため、学生の求める内容は何かを都度探りながら行っていきたい。

4. 受講学生に対する要望

実際に自分が手を動かす授業（楽器体験、フィールドワーク、ポップ作り）において、積極的に取り組む学生とそうでもない学生がおり、習熟度に差がでていると感じた。無駄な内容はないと考えているのでどの授業も主体的にかかわってほしい。

◆ピアノⅢ（音2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

シラバスについて、ここ何年かは初回の授業時に学生と一緒にシラバスを見ながら授業内容や流れ等を説明するようにしていますが、前回の授業評価ではまだ評価が低い科目もあったため、今年度も初回にシラバスを用いて授業説明をしました。しかし、やはり評価が低い科目があったため、シラバスの内容についても今一度見直しながら、学生自身が、シラバスを確認し授業内容を把握した上で受講をしているという自覚を持つことができるような確認の仕方を今後も検討していきたいと思えます。

2. 授業評価の結果に対するコメント

受講学生が1年次に引き続き2年次でも非常に真摯に取り組んでいる様子が自己の取組に対する評価によく表れており、大変嬉しく思いました。受講学生の向上心を毎回の授業時に実感しながら指導しています。マンツーマン指導により、個々の技術や特徴、音楽性等を十分把握し、個々が最大限伸びるよう、私自身も的確な指導法を常に考えながら授業に取り組んできたことが評価に繋がったのではないかと感じています。

3. 今後の授業における目標

今後も学生一人ひとりの状況をよく見つけ、学生が意欲的に取り組み成長できるような指導を心掛けたと思います。また、時折行いましたが、学生が指導を必要とする時に授業外でもいつでも対応できるよう、ICTも活用するなどして、学生の要望に応えながら、個々の最大限の成長を目指し指導していきたいと考えています。

4. 受講学生に対する要望

この2年次前期では近現代作品に取り組み、イメージして表現する難しさを感じながらも、それぞれの音楽表現を築いていくことができました。学修の取り組みや音楽を通して、演奏だけではなく幅広い知識や様々な力を身に付けることができたと思います。後期では、今までに身に付けてきた力や知識・技術、演奏法を活かしながら、さらに音楽を追究し、2年間の集大成となるよう取り組みましょう。

◆アンサンブル（音1・2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし

2. 授業評価の結果に対するコメント

3コマ連続、かつ難しい編成でのアンサンブルの授業は正直有意義な時間にする工夫がかなり必要だった。前期は試行錯誤で編曲をしてみるなどのチャレンジをしたが、もう少し計画的に進めるべきだったと反省。学生に助けられた部分が多かったと感じる。

3. 今後の授業における目標

後期は時間を有意義に過ごせるよう、メリハリのある練習計画と、発表の場を作ることを大事にしたい。難しい編成でのアンサンブルについても、全体合奏をするなど基礎力を底上げし、アカデミックな曲にも積極的にチャレンジしていけるようにしたい。5時間連続のアンサンブル練習は無理があるので、楽器を吹く以外の課題も工夫し、この時間が毎週楽しみな時間になってもらえるよう、毎回工夫を凝らしていきたい。

4. 受講学生に対する要望

取り組みたい曲、やってみたいアンサンブルなどは積極的に伝えてほしい。せっかくの時間なので、やりたいことを存分に楽しめる有意義な時間にしたい。

◆リペア応用 I (音 2)

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

リペアの授業は長時間作業が続き、集中力も必要となります。疲労改善のため授業開始時に適度なストレッチを実施しました。授業時間の都合上、数回しか実施できませんでしたが、ストレッチ後は学生の表情が和らぎ、その後の作業効率も上がったように感じられました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

自由記述欄で、「説明がわかりやすい」「1年次での応用技術を学べ、技術向上に取り組めた」などの回答があり非常に嬉しく感じます。しかし「雑談がうるさい」との意見もあり、その点は反省しています。

3. 今後の授業における目標

2年次後期になると、このくらいできて当たり前という態度で学生と接してしまうことがあるため、個々の技術力や理解度に合わせた指導を行いたい。また雑談についても「作業が続き集中力が途切れてしまう学生のリフレッシュになれば」「学生のコミュニケーション能力が高まるように」と積極的に会話をしてきたのだが、今後は盛り上がりすぎてしまわないよう心掛ける。

4. 受講学生に対する要望

後期のリペア応用は長時間の作業が続き、自主課題に取り組む時間も増えます。何の作業に取り組むか、自分でスケジュールを立て、積極的に取り組んでください。

◆電子オルガン演習 I (音 1)

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

とにかく学生の進捗状況を考慮し、学びやすい雰囲気作りを心掛けた。最初は初めて演奏する楽器で不安そうでしたが、学生同士もコミュニケーションをとりながら一生懸命取り組んでいて良かったです。

2. 授業評価の結果に対するコメント

全員電子オルガン初心者でしたのでシラバス通りに進めるのは難しかったが一人一人の進捗状況に合わせて指導をするように心掛けた。

3. 今後の授業における目標

学生の進捗状況を考慮しながら、一人一人に合った授業作りをし、達成感を得られる授業にしたい。

4. 受講学生に対する要望

わからない事、困った事があったら質問して下さい。一緒に解決しましょう。

◆電子オルガンⅠ（音１）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

授業開始前のガイダンスでの説明を入念に行う事で、授業の進め方、取り組み方をはっきりさせ、学生に寄り添ったレッスンができるように心掛けました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

すべての項目、満点でした。事前説明と、その都度の声かけで目標が立てやすく、わかりやすい授業ができました。

3. 今後の授業における目標

個々の力を最大限伸ばすよう、創意工夫し授業に臨みます。

4. 受講学生に対する要望

学習した事を、すぐに復習、繰り返し練習して技術や知識を定着させましょう。

◆鍵盤楽器Ⅰ（音１）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

第1回目の授業（ガイダンス）で、口頭ではあるがシラバスの説明を行った事で、鍵盤楽器の授業をどのように進めていくか理解して学生たちも授業に取り組むことができたのではないかと思います。

2. 授業評価の結果に対するコメント

学生一人一人の進度に合った丁寧な指導を心掛け、学生自ら考え表現しようと思えるようなアドバイスができるよう努めた。

3. 今後の授業における目標

今後もより一層、学生一人ひとりに真摯に向き合い、自信を持って指導できるように自己研鑽を怠らずに励みたいと思います。

4. 受講学生に対する要望

自分のペースで少しずつ、日々の積み重ねを大切に、練習を進めていってください。

◆音楽療法実践Ⅲ（音２）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

学生との距離の取り方について、お互いの立ち位置に気を付けて振る舞うことよりも、授業内での的確なアドバイスがあれば解決する問題だと気付きました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

音楽療法実践Ⅲでは、現場実践において生身である人と人との関りに多くの学びを得ます。この授業では、全ての学生が自分の持ち合わせている力を上手く実践に活かしていたように思います。実践現場で起きた喜びは自分の糧とし、反省点は次の現場で必ずクリアして自分の自信に繋げる、というところに力を入れてきました。計3回の実践では回を追うごとに、学生のどんどん成長していく姿を見ることができました。嬉しかったです。

3. 今後の授業における目標

シラバスにおいてはもう一度細かい見直しが必要と気付かされました。「現場実践を行って、その内容を振り返る」だけではなく、今後は実践回ごとに必要とする力をそれぞれ明記し、それを目的とした実践の進め方を提示していきたいと思います。学生にはより具体的な提示が必要であることが分かりました。

4. 受講学生に対する要望

すべては経験です。何事にもまずは挑戦してみてください。

◆リペア基礎 I A (音 1)

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

時間外学修について、授業時間内で実習の内容について、今後の授業の流れについて、作業の目的や目標についてを説明するように努めました。今期は授業後に教室に残って作業をする学生の姿を多く見ることができたため、時間外学修につなげることができたと感じました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取組に対する評価のマナーについて、担当科目の評価が特に低い点を残念に思います。授業の受け方について、マナーに反すると感じ注意をする場面は少なかったと感じるため、より一層授業環境を良いものにできるように努めたいと思います。

3. 今後の授業における目標

授業時間中の挙手への対応について不十分だったと感じるため、速やかに全体の指導ができるように注意して対応していきたいと感じました。前項のマナーについても同様に対策ができると思うので、改善内容について指摘されているように、指導ルートを明確にする、指導の効率化についても最善を尽くしていけるよう努力したいと思います。

4. 受講学生に対する要望

前期に引き続き新しく修得する知識、技術が多くあります。授業内での不明点、疑問点を残さないように、実習での練習や必要に応じての質問等で解決できるようにしていきましょう。

◆ピアノ I・III (音 1・2)

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし

2. 授業評価の結果に対するコメント

1対1の授業を1年生、2年生各2人ずつ行っていますが、同じように行っていても私に対する評価が分かれます。

3. 今後の授業における目標

ですので、どうしてほしいのか各人と話し合っていきたいです。楽譜を乱雑に扱うのは、心当たりがあります。改善します。

4. 受講学生に対する要望

質問等いつでも受け付けますので、遠慮なくしてください。

◆音楽史 (音 1)

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし

2. 授業評価の結果に対するコメント

西洋音楽史を身近に感じていただけている様で、良かったと思います。

3. 今後の授業における目標

さらに、学生の興味を引き出せるように、充実した内容を考えていきたいです。

4. 受講学生に対する要望

毎回、聴いて欲しい曲を数曲、提示していますので、次回までの一週間の間に、全て、聴いて欲しいです。

【歯科衛生学科】

◆保存修復・歯内療法学（歯2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果
該当なし
2. 授業評価の結果に対するコメント
初めて担当する授業であったため、時間配分がうまくできず、翌週にずれ込むことが多々あった。また、学生の名前をなかなか覚えられず、学生への質問が十分できなかった。
3. 今後の授業における目標
時間配分をもう少し考えること、事業の最初に前回の小テストを行うなど、知識の定着のための取り組みを充実させたい。
4. 受講学生に対する要望
真面目に取り組んでもらえて、大変感銘しました。この調子で、国試勉強にも励んでください。

◆口腔解剖学 I（歯1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果
通常の PowerPoint を用いたカラースライドに加え、適宜 3D ソフトを用いた授業は前年概ね好評であったので、本年は動画や 3D ソフトをさらに増やす工夫をした。
2. 授業評価の結果に対するコメント
要望の中に「PowerPoint に丸をつけてほしい、というのがあり、要するに正答がどの選択肢なのかがわかるようにしてほしい、ということだと思うが、そもそも問題とは別に解説用スライドも印刷して渡しており、それをよく読めば必ず答えはわかるようにしているし、加えて PowerPoint で授業を進める過程で、正答がどれかは口頭で伝えている。答えを提示するのは学修効果の向上に繋がるとは思えないので、今後も答えを印刷するようなことはしません。授業をしっかり聞いてください。
3. 今後の授業における目標
人体の構造を立体的に捉えるためには教科書のような 2 次元媒体だけでは限界がある。可能な限り理解しやすい動画や 3D ソフトを用い、歯科衛生士として必要な解剖の知識を伝えたい。
4. 受講学生に対する要望
興味を持って学ぶ姿勢があれば、解剖学が単なる暗記にはならず、学修が楽しいものになります。前向きに受講してください。

◆歯科臨床概論（歯1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果
著しく授業態度が悪い学生には、個別に注意するように心掛けた。
2. 授業評価の結果に対するコメント
多くの学生が、興味をもって聞いてくださり、また、楽しかったとの感想が多く、感謝したい。
3. 今後の授業における目標
楽しく、学ぶをモットーに講義を行っている。雑談が多いと書かれているが、それが面白く興味をもったと述べる学生もいる。自分自身では、学問に関係ある雑談がほとんどで、楽しく興味を持たせる方便なので、今後も続けたい。
4. 受講学生に対する要望
日頃の講義を大切にすれば、試験はそれほど苦勞しない。

◆ 歯科衛生士概論（歯 1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

今回は、非常に全体的に高い評価をいただいた。1年生の前期でもあり、授業に慣れてもらえるように、項目ごとに授業を進めながら、プリントを完成していく方式を毎回取っていく方法は、依然と変えていないが、特に、出来るだけゆっくりと講義とプリントをまとめる時間をかけて進めていたことが、よい結果に繋がったと思います。学生のペースに合わせて確認しながら行ったことも評価に繋がった結果だと思っています。

2. 授業評価の結果に対するコメント

今回は、人数的にも一人一人に話しかける時間もあり、演習的なことをできるだけ入れながら、学生同士で意見交換することで、一方的な授業にならないように心掛けたことが、評価のなかで、楽しかった、グループ交流があったり先生が話に来てくれたりずっと黙って授業を受けるだけじゃなかったのが楽しく授業を受けることが出来たとのコメントを頂けたことは、成果があったと思います。

3. 今後の授業における目標

今後も、今年の授業の内容、方法を取り入れながら、行っていきたい。一部プリントの訂正しなければいけない箇所があったので、確認を再度することを心掛けたい。

4. 受講学生に対する要望

教科書を中心に進めているので、PowerPoint の画面のみでプリントをまとめるのではなく、テキストも一緒に活用して欲しいと思います。授業の内容が一層理解しやすく、復習し易くなります。

◆ 歯周病予防技術法 I（歯 1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

学生全員理解度も違うし、技術の修得具合も違うのでしっかり全体把握に努めた。口腔内を触るので、緊張感も大事にしつつ緊張しすぎてしまわないように、多少ほぐしつつ理解しやすい環境を考慮した。学生からのコメントで楽しく理解できたと思ったので効果はあったかと思う。今後も意識して継続したい。

2. 授業評価の結果に対するコメント

初めて口腔内を診たり、初めて触る器具の操作も難しい科目だが、学生みんなしっかり身に付けるために意欲的に取り組んでくれて「自己の取組に対する評価」の「マナー」「意欲」が4.0と高得点で嬉しく思う。

3. 今後の授業における目標

初めて行うことに対してできるかどうか不安になる学生もいるかと思うので、不安な気持ちにならないように配慮したい。

4. 受講学生に対する要望

わからないことやできないことは、遠慮なく聞いてほしい。授業だけでは、すぐに修得できないので練習をたくさんしてほしい。

◆ う蝕予防処置法 II（歯 2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前回は授業プリントを穴埋めする際に学生のスピードに合わせるため、手入力でスライドを埋めていたが、文字が小さく見えにくい、大きくしてほしいとの意見があったので、今年度は文字を大きく大きく改善した。その結果、同じ感想は出なかったのが改善されたと伺える。

2. 授業評価の結果に対するコメント

昨年、一昨年とブラッシュアップしているが、内容は同じ授業を行っている。それなのにも関わらずアンケート結果がだいぶ異なる。対象が変わるとこれほどにも違うのかと感じた。授業進行について、いつも心掛けているように出来るだけわかりやすく、前回復習を入れながら進行することで、知識の定着に繋がっていると思われるため、今後も続けていこうと思う。

3. 今後の授業における目標

特に新しい科目を教える際は、あれもこれもと伝えたいことが多くなり、早口になってしまうようだ。他の科目とのつながりを考えると内容が盛りだくさんになってしまうのは仕方のないことだが、来年は取捨選択をしようと思う。

4. 受講学生に対する要望

授業進行中に申し出てくれた解決することが多いため、疑問に思った時に質問や要望を出してくれると嬉しい。終わった後に早かったといわれても、「進んで大丈夫か」確認しながら進めていたので、正直驚いた。教室後方にいたとしても何らかの形で教えてくれたら途中で改善できたと思う。

◆ 歯科保健指導基礎(歯科1)

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前回の振り返りから、シラバス通りに進めることを意識した。前回学生の評価が良かった学修内容の振り返りや、小テストによる知識の確認は継続して行った。この点は、今回もよい評価を得られた。授業内容に興味を持つよう、新しい口腔衛生用品を実際に使用してみるなど工夫した。

2. 授業評価の結果に対するコメント

この授業の目的である、自分自身の生活習慣と関連付けるという点については、学生のコメントからも達成することができたと考える。

3. 今後の授業における目標

1年生前期の授業であるため、大学生として、歯科衛生学を学ぶ学生としてどのように学修を進めていくのかをガイダンスする。個々の学生の学修進度にも目を向けながら授業を進めていく。

4. 受講学生に対する要望

今後も、授業に積極的に参加し、様々な学修に興味をもって取り組んでほしい。

◆ 診療補助基礎 I (歯1)

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

今年度は歯科衛生学科で相互実習を行うために、実際に口腔内には触れずに相互実習の一連の流れのロールプレイを行った。実施したことにより、学生がその後の本科目や他科目での相互実習をスムーズに行えるようになった。また、様々な種類のバキュームに触れてみるといった応用編の授業を行った、実際の臨床で使用する状況を設定したことにより、将来歯科衛生士になり診療補助を行う姿を想像できたのではないかと考える。

2. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取組に対する評価でマナーの部分が高く、授業内でも身だしなみ・時間、期限を守ることを繰り返し指導した結果ではないかと考える。厳しいとの声もあるが、今後も時代に合わせて指導していきたい。また、知識技能修得については、歯科衛生士として業務を行うにあたり重要になってくる技能に関して授業内で繰り返し復習を行ったことが3.9という結果につながったのではないかと考える。

3. 今後の授業における目標

実習科目は技能優先と考えるため。実習時間については一人当たりの時間が多くなるように時間を確保したい。デモ動画などを作成し技能の確認を自宅などで復習できるよう、ICTを積極的に活用していきたい。

4. 受講学生に対する要望

身だしなみ、時間・期限を守るなど、臨床（社会）に出るにあたって当然のことです。やるときはやる、休むときは休むメリハリをつけて実習をしましょう。教員の話はしっかり聞きましょう。自分で判断できない時は、必ず教員に確認してください。授業でわからないことがあれば、その場で聞か授業後に質問しに来てください。わからないことをそのままにしないように。

◆歯科矯正学（歯2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし

2. 授業評価の結果に対するコメント

非常勤講師としての初年度の講義でした。今年度から教科書の改訂があり、それに対応するために、前年度の講義資料を参考に1から講義資料を作成しました。それもあって、とにかく資料の準備に追われました。資料を揃えるのが精一杯の講義回の時もあり、不足の情報は口頭で伝えることも多かったです。それでも学生にわかりやすく伝えようと努めました。その結果、比較的高評価をしていただけたと思います。

3. 今後の授業における目標

今年度の講義資料をブラッシュアップし、さらに学生さんにわかりやすく伝えられるようにしていきたいです。

4. 受講学生に対する要望

講義内容に対し不明な点や気になることは遠慮なく質問してください。些細なことでも構いません。

◆生理学（歯1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

授業時間内でシラバス通りに全て講義を行い、小テストも行うことができてよかった。

2. 授業評価の結果に対するコメント

全学、学科平均と比べてほぼ変わらない評価だったが、説明や工夫が若干平均値より低かったのでその辺りを中心にスライドのレイアウトなどを改善しようと思う。

3. 今後の授業における目標

教科書を中心に講義を行ったため配布資料は少なかったが、復習がしやすいように補助的な資料を配布しようと思う。生理学を理解するには解剖学による理解が必要なため、教科書の到達目標を中心に解剖的な補足説明を行なった上で生理学の講義を行うようにしたい。

4. 受講学生に対する要望

生理学は身体の機能を学ぶ学問ですが、解剖学（身体の構造）とセットで学ばないと理解が難しくなります。そのため予習や復習で教科書を何度も読み返し、専門用語を覚えておくと生理学もスムーズに理解ができると思います。大切なところは教科書の各章の到達目標を中心に勉強を行うようにしてください。

◆口腔衛生学Ⅰ（歯Ⅰ）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

今回から歯科（口腔保健）関連するニュースや記事などを授業内で配布しました。記事やニュースを見せることで歯科関係を検索することが増えたと思うし、歯科に関わる楽しみを持てたのではないかと思います。

2. 授業評価の結果に対するコメント

学生さんから改善してほしい点を修正した部分が、良い評価でしたので嬉しく思います。

3. 今後の授業における目標

今後も「わかりやすい授業を」目標にして様々な改善と工夫をする。また受動的ではない学習時間を少しずつ増やしていきたいと考えています。

4. 受講学生に対する要望

歯科に関連する記事やニュースなどに意識を向けて欲しいです。分からないことは積極的に調べてください。質問等あれば、授業前後に声をかけてください。

教養科目

◆情報科学（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

学生の進捗状況を踏まえて、課題提出設定の時期を若干遅らせるなど、意欲的な学びにつながる時間的保障と個に応じた援助にも臨機応変に対応できるようにして授業の充実を図ることができた。

情報セキュリティに関する内容については、テキストの事例はもちろん、日常社会で起きている事例を取り上げながら最新のセキュリティへの対応力が身に付くように心掛けて授業を展開することができた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

テキストを活用して情報セキュリティの学修及び文書作成、表計算、プレゼンテーションの各ソフトウェアの基礎的なスキルを身に付けることを目標とした演習中心の授業が実施できた。学生一人一人が意欲的に取り組み学修成果を上げることができ、よい授業評価を得ることができた。毎時間実施した授業振り返りのコメントには、説明を加えてほしいとの要望もあり、個への対応も含めて今後の改善点としたい。

3. 今後の授業における目標

演習を通して一人一人のスキルアップを目指すとともに、個に対応した支援の充実を図っていき、実社会に出た時に役立つスキルが身に付くように授業の工夫及び改善をすすめていく。情報セキュリティの学修については、引き続き最新の事例を紹介しながら、セキュリティへの意識の高揚を図っていく。

4. 受講学生に対する要望

テキストやUSBメモリ、参考資料等の忘れ物があると、学修や演習に遅れが生じるので、準備を怠らないようにしてほしい。講義や演習でのわからない点は、仲間に尋ねたり積極的に質問したりして解決してほしい。

◆教養キャリア基礎演習Ⅱ（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし

2. 授業評価の結果に対するコメント

多くの学生が、多様な学びを得られたというアンケート回答をしていたため、今後もそうした学

びを促せるようにしていきたい。

3. 今後の授業における目標

一部の学生から、実施場所が分かりにくかったという意見があったため、今後は事前に実施場所が分かりやすいよう掲示板や Google classroom を活用して効果的に伝達していく。また、引き続き多様な学びを得られるよう授業構成していけるようにする。

4. 受講学生に対する要望

今後も、前向きに授業へ参加してほしい。

◆外国語コミュニケーションⅡ（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

教科書の内容に入る前に、毎時間、各 UNIT のテーマに関わる質問を英語で行う活動を取り入れた。それによって、学生は英語で話すことに対する抵抗感が減るとともに、英語で話す楽しさを感じ、その結果、授業の雰囲気向上した。

2. 授業評価の結果に対するコメント

ほとんどの学生が肯定的な評価をしてくれたことは大変励みになった。特に、「受講して良かったところ」として、高校まで英語が不得意で苦手意識をもっていた学生が、英語を楽しく学べた、好きになった、聞けるようになった、話せるようになったとの感想が多く寄せられたのは、1に記した授業改善により授業の雰囲気がよくなったことが大きく影響していると考えられる。

3. 今後の授業における目標

よい授業は、内容や方法はもちろんだが、教授者自身が楽しんで教えることがもっとも大切だと思う。それが学生の授業内外の取組に肯定的な影響を与えるのではないか。そうした意味で、今後一層自分自身が楽しみながら教え、楽しく明るい雰囲気で授業を実施するよう努めたい。

4. 受講学生に対する要望

高校まで英語に苦手意識をもっていた人が、授業を楽しみながら、とても前向きに取り組んでくれたことに対して心から感謝しています。後期は学ぶ量がかなり増えますが、楽しんで学ぶ気持ちさえあれば大丈夫です。一緒に頑張りましょう！

◆体育Ⅰ（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

演習科目を多く担当しているため、より実践力につながるようにグループワークを充実させることを授業改善の課題としました。グループワークの内容を明確にすることや、グループをあまり変えないことで、より深い学びになることを目指しました。全般的に、授業の意図を理解し、意欲的で楽しく授業に取り組んでいる姿が見られました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

1年生の前期であり、スポーツ等を通して体を動かしながら、人間関係の構築を目指した。評価のコメントから多くの仲間との関係性につながった、楽しく活動できたことが分かり、一定の目標を達成できたと感じている。一方、進度レベルの評価が平均より低い結果は、繰り返される活動に飽きが来た、説明の話が長いなどの指摘とつながっている。体育の授業である以上、運動量の確保や運動の難易度の工夫が今後の課題だと認識した。

3. 今後の授業における目標

体や心の健康につながる運動の大切さを伝える、学生自身の生涯の健康が認識できる体育を今後も目指したい。しかし、運動能力や運動への意識が様々な学士集団でもあるため、スポーツの理解や運動の難易度の設定に、今以上に工夫し、いつの間にか楽しく全力で体を動かしている授業を展開するように努めたい。

4. 受講学生に対する要望

運動の得意不得意や好き嫌いがそれぞれある中、全体的に意欲的に取り組んでいる姿は素晴らしかった。仲間同士で励まし合っており、前向きで心が温かい学生が多く、また、この授業での学びを将来の自身の保育観として解釈する学生もいた。授業が盛り上がることも多く、良い授業ができたのは学生の意識の高さがあったからである。今後は、保育の健康や運動、レクリエーションの科目の中で、体育Iでの学びをより深めてほしい。

◆音楽療法入門（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

教養科目であり、なおかつ資格取得を目指す学生には最初に受ける専門的な内容となるため、広く浅い内容ではあるがさらに深く学びたいという意欲を持たせるような内容を心掛けた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

評価の自由記述からはその試みは成功しているように見える。ただし前回の評価でもあったスライドの速さ（早すぎて書けなかった）、字の見やすさなどに再度指摘があったため、授業資料の提示を改善していきたい。

3. 今後の授業における目標

前回は指摘のあったスライドの速さ、文字の見やすさについて、自分では改善したつもりであったがまだ十分ではなかったので次年度からも見やすさ、わかりやすさに留意したい。

4. 受講学生に対する要望

私語のある学生に毎年苦慮している。受講学生が多くわからないだろうと思っているかもしれないが教員からはよく見えているのでやめてほしい。

◆国語表現（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし

2. 授業評価の結果に対するコメント

学生の皆さんが僕の授業を高く評価してくださったのでますます頑張ります。

3. 今後の授業における目標

学生が楽しく学べる授業づくりを目指します。

4. 受講学生に対する要望

はきはき通る声で発言できるようにしましょう。

◆ヒトの身体のおしくみ（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし

2. 授業評価の結果に対するコメント

初めて担当する授業であったため、時間配分がうまくできず、翌週にずれ込むことが多々あった。また、学生の名前をなかなか覚えられず、学生への質問が十分できなかった。

3. 今後の授業における目標

板書の字が見にくいとの指摘があったので、丁寧に大きく板書することを心掛けたい。

4. 受講学生に対する要望

課題学習の際にもう少し、静粛に取り組んでもらえればありがたいです。（ごく一部ですが）

◆女性学（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前回の授業評価では、複数の科目で授業環境の整備（具体的には学生の私語への対応）が課題となっていた。心理学系の講義では授業を受ける際の心理状態も学生にとって重要であると考え、自由席で授業を行っている。令和6年度前期には、上記理由を丁寧に学生に説明するとともに、早めにこまめに注意をするよう、心掛けた。ゲスト講師の授業の際にも講義室内をよく見て、他学生の集中力を削ぐような言動をしている学生を注意した。教員が注意を与え良好な受講環境を確保したことについては授業時の学生からのコメントでも肯定的に捉えられており、一定の効果は得られたものと思われる。後期も引き続き継続していく。

2. 授業評価の結果に対するコメント

学生自身の取り組みに関してはマナーの得点が低かった。教養科目であり、ゲスト講師の回も多かったため、学生自身も緊張感が緩んでいたと自覚していたようだった。一方で、リラックスして楽な気持ちで受けて欲しいという思いもあるため、この兼ね合いが難しいと感じた。教員の取り組みについては説明の得点が低く、馴染みがなく難しい言葉や概念もあったため、基礎的なことをもっと丁寧に説明する必要があったものと思われる。記述コメントにはこの授業を受講したことが学生の視野を広げ、自らの人生についてじっくり考えるきっかけになった旨が多く書かれており、内容の濃い有意義な場を提供できたことを実感した。

3. 今後の授業における目標

従来から課題となっている学生の受講態度（特に私語）については、大人数の授業であるからこそ全ての学生が快適な環境で受講できるよう、引き続き注意を促していく。また、講義室内の着席範囲なども考えて継続して対応し、居心地の良い環境で受講できるような環境を整える。好評だったグループワークは学科間交流の貴重な場をととして今後も継続し、学科を問わず他者と協力して課題に取り組んだり議論したりする機会を確保していく。

4. 受講学生に対する要望

ミニツツペーパーや授業評価のコメントから、みなさんがジェンダーというキーワードを意識し、自らにも問い続けていく姿が伝わってきて、この授業を行う意義を感じています。授業で出会った「今まで知らなかったこと」「興味のなかったこと」にこれからも積極的に耳を傾け、アンテナを立ててほしいです。

本学の教職員は これからも
学生の皆さんの学びをさらに深めるために
よりより授業づくりへの努力を続けます

学生のみなさん、授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。

本学では本年度も、多くの学生が積極的な姿勢で授業に参加し、多くの教員の授業が学生から高い評価を受けました。授業は教員が行うものですが、そこに学生のみなさんが居てこそ成り立つものです。学生にとってより良い授業を実現させるためには、教員による質の高い授業の実施、そして学生の真摯な取り組みと率直な声、それに応える形での教員の授業改善という循環が不可欠です。毎年実施している学生による授業評価とその結果へのコメントをはじめとして、日ごろの授業の中でも教員と学生とで良好なコミュニケーションを行い、大垣女子短期大学の特色を生かした授業を学生・教員ともに力を合わせて作り上げていきましょう。

総合評価の高かった教員を対象に顕彰が行われています。
令和6年度前期は以下の授業の担当教員が顕彰の対象になりました。